

「福島サテライト -2011-」について

原発事故により臨時休校中だった相双地区生徒の学習機会を確保するため、福島県内各地にサテライトが設けられ、協力校の空き教室や体育館を使って授業が行われた。

間借りした教室での不自由を忍び、故郷を思いながら生活を送る者。より良い教育環境を求め、避難先の高校に転校する者。収束が見通せない原発事故に、学校も家族も翻弄された。福島の人たちは現在も、不安・困難・怒りが継続させられている。自分は、家族は、子どもたちは、どこでどう生きていけばいいのか。ニュースの終わりに放送される県内各地の放射線量。公共施設に設置されたままのモニタリングポスト。言葉への信頼は失われ、震災と原発事故はいま、忘却の淵に沈もうとしている。

福島県立岩瀬農業高校・演劇部顧問 山崎 隆久

ご挨拶

2011年3月11日、戦後日本社会の根幹を揺さぶった東日本大震災、原発事故から7年の歳月が経とうとしています。「戦後70年」の時もそうだったが、わたしたち日本人はなぜすべてを「忘却の彼方」に追いやってしまうのでしょうか。3・11以降、何も変わってないし、何も終わっていないにも拘らず「忘却の彼方＝ダークサイド」に誘い込む魔力がこの国に蔓延しているようです。日本演出者協会はそんな時代の空気に抗いフェニックスプロジェクトを再起動させます。あの時「小学生だった」福島の高校生たちが自分たちの言葉で「フクシマの現在」を伝えます。一緒に語り合しましょう。

日本演出者協会理事長 流山 兎 祥

フェニックスプロジェクト再起動

あの日から、福島の高校演劇は原発事故をテーマにした作品を数多く生み出してきました。それらは当事者性を持った高校生の切なる現場からのレポートであり、祈りであり、闘いでした。あれからもうじき7年です。見た目の復興と見せかけの日常は戻り、原発事故に関わる高校演劇作品も少なくなりました。とはいえ、そういう作品は今も生まれ続けています。作り手は、あの頃の小学生で、それも当事者の意識を持たない高校生たち。そんな彼らの行動の理由と意義を、演劇の役割とを彼らと一緒に考えてみませんか。劇場でお待ちしております。

フェニックスプロジェクト実行委員 佐藤 茂紀

■主催：一般社団法人 日本演出者協会 ■共催：福島県高等学校演劇連盟 ■協力：日本児童・青少年演劇劇団協働組合、スタジオあくどれ

連携情報

福島県立相馬農業高校飯館校上演のご案内

「- サテライト仮想劇 -いつか、その日に、」

第63回全国高等学校演劇大会(宮城大会)にて優良賞、および舞台美術賞を受賞した作品。待望の東京公演。

■日時：2018年2月11日(日)、12日(月)両日ともに13:00、17:00開演
 ◎上演時間：約60分 ◎各回ポストパフォーマンストークあります。

■会場：アトリエ春風舎 ■料金：一般1,500円 U_26 500円

■問い合わせ：iideate.itsunohinika@gmail.com

※福島県立相馬農業高校飯館校への直接のお問い合わせはご遠慮ください。

■主催：福島県立相馬農業高校飯館校演劇部 東京公演実行委員会

■共催：福島県立相馬農業高校飯館校 演劇部、(有)アゴラ企画・こまばアゴラ劇場

演劇キャンプ in 富岡の報告会と「空の村号」上演のご案内

福島の若者(20歳)が福島の思いを伝えます。

■日時：2018年2月26日(月)

◎13:00～報告会 ◎14:00～17:00 ワークショップ ◎18:30～「空の村号」公演

■会場：国立オリンピック記念青少年総合センター大ホール ■参加費：1,000円

■問い合わせ：NPO法人 富岡町3.11を語る会 TEL:024-955-6760

日本演劇教育連盟 TEL:03-3983-6780

■主催：NPO法人 富岡町3.11を語る会

■共催：富岡町、日本演劇教育連盟

